



平成21年1月  
日本学士院

## 日本学士院会員候補者推薦要項

日本学士院は、日本学士院会員選定規則第2条の規定により、平成20年12月12日開催の第1024回総会において、下記により日本学士院会員の補充を行うことを決定しました。会員候補者を推薦される場合には、「日本学士院会員選定規則（抄）」及び「日本学士院会員分科別一覧」を参照の上、必要書類を取り揃え、期間内に本院に御提出ください。

### 記

#### 1. 各部、各分科において補充すべき会員の数

##### 第1部（人文科学部門）

|                |      |
|----------------|------|
| 第1分科（文学・史学・哲学） | 5名以内 |
| 第2分科（法律学・政治学）  | 3名以内 |
| 第3分科（経済学・商学）   | 3名以内 |

##### 第2部（自然科学部門）

|                |      |
|----------------|------|
| 第4分科（理学）       | 1名以内 |
| 第5分科（工学）       | 2名以内 |
| 第7分科（医学・薬学・歯学） | 2名以内 |

計 16名以内

※第6分科は欠員が無いため本年は補充を行いません。

#### 2. 書類の提出期間

平成21年1月13日から3月2日まで（消印有効）

#### 3. 書類の送付先及び問い合わせ先

日本学士院庶務係

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32

電話：03-3822-2101（直通）

#### 4. 必要書類（正副2通、1通はコピー可、A4判）

- (1) 推薦書（別紙様式）
- (2) 履歴（学歴、職歴、賞罰等について概要を記載する。）
- (3) 主要な学術上の業績（その大要を記載する。）
- (4) 主要な著書及び論文の目録（簡単な解説を附する。）

## 5. 選考結果について

平成21年12月中頃に、推薦者に通知及び本院webサイトにてお知らせします。

## 6. 留意事項

- (1) 選考は、提出された書類に基づき行われます。選考に当って情報が不足する場合には、再度書類の提出を依頼する場合がありますので、書類は締切に余裕を持って提出願います。
- (2) 別紙の「履歴」、「主要な学術上の業績」、「主要な著書及び論文の目録」の様式は任意です。
- (3) 別紙の「履歴」には、元号（西暦）年及び月を入れ、現職がある場合には（現在に至る）を記入願います。
- (4) 別紙の「主要な著書及び論文の目録」には、簡単な解説を附することと  
なっています。文献1つずつに附していただくか、若しくは全体にまと  
めて附していただくか、いずれでも結構です。

## 7. その他

日本学士院の詳細につきましては、同封の「日本学士院概要2009」又は「日本学士院webサイト（<http://www.japan-acad.go.jp/>）」を御覧ください。

なお、推薦書の様式については、本院webサイト上からダウンロードすることができます。

## 日本学士院会員候補者推薦書

1. 被推薦者 (氏名)
1. 本籍 (都道府県名のみ記す。)
1. 住所 〒
1. 生年月日
1. 現職 (若しくは最終の職)
1. 専攻学科目
1. 所属すべき分科の指定

右何 某 氏を学術上功績顕著な科学者と認め日本学士院会員候補者に推薦します。

平成 年 月 日

推 薦 者  
学術団体名及び所在地

右代表者  
氏 名 自 署 (団体における地位、役職等頭書)  
住 所

日本学士院長 久 保 正 彰 殿

日本学士院会員候補者推薦書

1. 被推薦者 上野太郎 (うえの たろう)
1. 本籍 東京都
1. 住所 〒110-0000 東京都台東区上野公園0-0-0
1. 生年月日 昭和0年0月0日
1. 現職 (若しくは最終の職) 000大学教授、00大学名誉教授
1. 専攻学科目 00学
1. 所属すべき分科の指定 第0部第0分科

右 上野太郎氏を学術上功績顕著な科学者と認め日本学士院会員候補者に推薦します。

平成0年0月0日

推薦者

学術団体名及び所在地

00学会

〒110-0000 東京都台東区0-0-0

右代表者

氏名 会長 0000 ※自署 (押印不要)

住所 〒110-0000 東京都台東区0-0-0

日本学士院長 久保正彰 殿

## 日本学士院会員選定規則（抄）

（候補者の推薦）

第3条 日本学士院会員候補者の推薦をなし得る者は次のとおりとする。

(1) 学術機関（大学の各学部及び研究所を含む。）及び学会（学術機関及び学会を以下「学術団体」という。）

(2) 日本学士院会員

(3) 日本学術会議会員

2 前項の推薦資格者は、各学術団体又は各個人ごとに候補者1名を推薦することができる。

3 日本学士院会員と日本学術会議会員との2つの資格を有する者が候補者を推薦する場合には、日本学士院会員の資格をもってこれを行うものとする。

4 日本学士院会員は、その所属する分科の候補者に限り推薦することができる。

5 日本学術会議会員は、その所属する部に相当する分科の候補者に限り推薦することができる。

6 推薦者は、次の事項を記載した推薦書を、日本学士院長に提出しなければならない。

(1)被推薦者の氏名、本籍（都道府県名のみ記す。）及び住所

(2)所属すべき分科

(3)履歴（概要でよい。）

(4)主要な学術上の業績（その大要を記載する。）

(5)主要な著書及び論文の目録（簡単な解説を附する。）

7 推薦書は、別記の書式により、推薦者（学術団体の場合にはその代表者とし、その代表者の団体における地位、役名等を記す。）の署名を必要とする。

8 推薦には本人の承諾を必要としない。但し、本人はこれを辞退することができる。

9 推薦書は、あらかじめ公示された提出期間内に、日本学士院事務室あてに送付しなければならない。

10 郵送による推薦書が期間経過後に到達したときは、郵便官署の日附印により、期間内の発信を確認し得る場合に限り、期間内に提出されたものとみなす。

- 11 推薦書が期間経過後に提出された場合には、これを受理しない。推薦書がいちじるしく要件を欠くときも同様である。
- 12 提出した推薦書に不備があるときは、推薦者はこれを補正しなければならない。
- 13 選考委員会が、補正を条件として推薦書を受理した場合において、委員会の定める期間内に補正しないときは、その受理を無効とする。

(被推薦者)

第4条 推薦される候補者は、学術上功績顕著な科学者でなければならない。その資格の判定は選考委員会の審査による。

# 日本学士院会員一覧

## 第1部(人文科学部門)

(平成21年1月1日現在)

| 分科別                      | 会員名(専攻学科目)  |   |   | 定員 | 現員 | 欠員 |
|--------------------------|---|---|---|----|----|----|
| 第1分科<br>(文学<br>史学<br>哲学) | 久保 正彰 (西洋古典学)<br>辻村 公一 (哲学)<br>築島 裕 (国語学)<br>中根 千枝 (社会人類学)<br>中川 久定 (フランス文学)<br>永井 博 (哲学・科学哲学)<br>西田 龍雄 (言語学)<br>岩崎英二郎 (ドイツ語学)<br>秋山 虔 (日本文学)     | 原 實 (インド古典学)<br>田仲 一成 (中国文学)<br>源 了圓 (日本思想史)<br>荒井 献 (新約聖書学)<br>吉田 民人 (社会学)<br>尾藤 正英 (日本史)<br>伊藤 貞夫 (西洋史学[古典古代史])<br>武田 恒夫 (日本絵画史)<br>上田 閑照 (哲学・宗教哲学) | 斯波 義信 (中国史)<br>久保田 淳 (日本文学)<br>吉川 忠夫 (中国史)<br>御牧 克己(インド・チベット仏教学)<br>難波精一郎 (心理学)<br>玉泉八州男 (英文学)<br>青柳 正規 (美術史・古典考古学) | 30 | 25 | 5  |
| 第2分科<br>(法律学<br>政治学)     | 團藤 重光 (刑法・刑事訴訟法)<br>伊藤 正己 (英米法・憲法)<br>細谷 千博 (外交史・国際関係論)<br>三ヶ月 章(民事訴訟法学・裁判法学)<br>小田 滋 (国際法)<br>河本 一郎(商法・証券取引法)<br>星野 英一 (民法)<br>京極 純一 (政治学・政治過程論) | 中野貞一郎 (民事手続法)<br>塩野 宏 (行政法)<br>三宅 一郎(政治学・政治行動論)<br>樋口 陽一 (憲法学)<br>村上 淳一 (ドイツ法)<br>石本 泰雄 (国際法)<br>三谷太一郎 (日本政治外交史)<br>奥田 昌道 (民法)                        | 松尾 浩也 (刑事法)<br>西尾 勝 (行政学)<br>竹下 守夫 (民事訴訟法学)<br>龍田 節 (商法)<br>菅野 和夫 (労働法)   | 24 | 21 | 3  |
| 第3分科<br>(経済学<br>商学)      | 大内 力 (経済理論・経済政策)<br>館 龍一郎 (金融論・財政学)<br>宇澤 弘文 (経済学)<br>小宮隆太郎 (経済学)<br>小林 昇 (経済学史)  | 宮澤 健一 (経済学)<br>石川 滋 (開発経済論)<br>水田 洋 (社会思想史)<br>根岸 隆 (経済理論・経済学史)<br>速水 融 (日本経済史・歴史人口学)   | 伊藤 誠 (経済理論・現状分析)<br>貝塚 啓明 (財政学・金融論)<br>新開 陽一 (経済学)  | 16 | 13 | 3  |
| 小計                       |   |   |   | 70 | 59 | 11 |

## 第2部 (自然科学部門)

| 分科別                      | 会員名(専攻学科目)   |   |   | 定員  | 現員  | 欠員 |
|--------------------------|--|---|---|-----|-----|----|
| 第4分科<br>(理学)             | 藤田 良雄 (天文学)<br>江崎玲於奈 (物理学)<br>広中 平祐 (数学)<br>古在 由秀 (天文学)<br>長倉 三郎 (物理化学)<br>関 集三 (物理化学)<br>林 忠四郎 (理論天体物理学)<br>山崎 一雄 (無機化学)<br>西島 和彦 (理論物理学)<br>富澤 純一 (分子生物学)<br>久城 育夫 (岩石学) | 向山 光昭 (有機合成化学)<br>大澤 文夫 (生物物理学)<br>横山 泉 (火山物理学)<br>松本 達郎 (地質学)<br>井口 洋夫 (物理化学)<br>上田 誠也 (地球物理学)<br>樋渡 宏一 (細胞生物学・遺伝学)<br>近藤 淳 (物理学)<br>森 重文 (数学)<br>花房秀三郎 (細胞生物学・分子腫瘍学)<br>竹市 雅俊 (発生生物学・細胞生物学) | 大村 智 (天然物有機化学)<br>小柴 昌俊 (物理学)<br>森本 信男 (鉱物学)<br>山崎 敏光 (原子核物理学)<br>松野 太郎 (気象学・地球物理学)<br>外村 彰 (物理学)<br>柏原 正樹 (数学)<br>西田 篤弘 (宇宙空間物理学・磁気圏物理学) | 31  | 30  | 1  |
| 第5分科<br>(工学)             | 荒田 吉明 (高温工学・溶接工学)<br>伊藤 英覺 (機械工学・流体工学)<br>西澤 潤一 (電子工学・通信工学)<br>鈴木 弘 (機械工学[金属塑性加工学])<br>横堀 武夫 (材料工学・機械工学)<br>乾 崇夫 (造船学[船型学])  | 本多 健一 (応用化学)<br>野崎 一 (有機合成化学・有機金属化学)<br>白川 英樹 (物質科学・高分子化学)<br>野依 良治 (有機化学)<br>岩崎 俊一 (電子通信工学・磁気工学)<br>岡村 總吾 (電子工学・通信工学)  | 井上 明久 (金属材料学)<br>田中 耕一 (質量分析)<br>堀川 清司 (土木工学[海岸工学])   | 17  | 15  | 2  |
| 第6分科<br>(農学)             | 松井 正直 (農芸化学)<br>田村 三郎 (生物有機化学)<br>沢田 敏男 (農業土木学)<br>山田 康之 (植物分子細胞生物学)   | 入谷 明 (家畜繁殖学)<br>和田 光史 (土壌学)<br>四方英四郎 (植物病理学・ウイルス学)<br>稲上 正 (分子細胞生理学)  | 別府 輝彦 (応用微生物学)<br>常脇恒一郎 (植物遺伝学)<br>佐々木恵彦 (森林資源科学・樹木生理学)<br>喜田 宏 (獣医微生物学)  | 12  | 12  | 0  |
| 第7分科<br>(医学<br>薬学<br>歯学) | 早石 修 (生化学・医化学)<br>杉村 隆 (生化学・腫瘍学)<br>山川 民夫 (生化学)<br>伊藤 正男 (生理学)<br>柴田 承二 (天然物化学・生薬学)<br>豊島久真男 (ウイルス学・腫瘍学)   | 織田 敏次 (内科学)<br>井村 裕夫 (内科学)<br>森 亘 (病理学)<br>大塚 正徳 (薬理学)<br>岸本 忠三 (免疫学)<br>濱 清 (解剖学)  | 石坂 公成 (免疫学)<br>廣川 信隆 (分子細胞生物学)<br>関谷 剛男 (薬学・核酸有機化学)<br>本庶 佑 (医化学・分子免疫学)<br>須田 立雄 (歯学[歯科基礎医学])<br>鈴木 邦彦 (有機化学・神経内科・遺伝性神経誌)                 | 20  | 18  | 2  |
| 小計                       |  |   |   | 80  | 75  | 5  |
| 合計                       |  |   |   | 150 | 134 | 16 |